



東京都 中央区

## 日本橋れいわ内科クリニック

代表医師：井内裕之氏

稼働電子カルテシステム

**SimCLINIC T3α  
XLink package**

(島津製作所/島津メディカルシステムズ)

# 電子カルテに加え、医療ITを駆使して生活習慣病診療の効率化と迅速化を実現

2020年3月、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による1回目の緊急事態宣言発出直前に開業した日本橋れいわ内科クリニック。代表医師である井内裕之氏は、開業と同時に電子カルテシステム「SimCLINIC T3α XLink package」を導入して効率的かつ迅速な医療体制を構築した。さらに同年12月には遺伝子解析装置「AutoAmp」を導入し、COVID-19に関するPCR検査を実施している。井内氏に、医療IT化の経緯と新システムの有用性について話を聞いた。

### 画面設定・文書作成の自由度と診療状況を把握可能な点を評価

——開業の経緯と新クリニックでのIT化についてお聞かせください。

私の専門は糖尿病内科ですが、高血圧の研究も行いながら、大学病院で生活習慣病全般を診療していました。生活習慣病は糖尿病、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症のような疾患と、そこから派生して起こる慢性腎臓病、糖尿病の合併症で

ある網膜症や神経障害、さらにそこから複合的に起こる心筋梗塞、脳梗塞など、診察しないといけない項目は多岐にわたります。しかし、現況下、来院する患者さんに対して割ける診療時間は短く、それが大学病院では尚更です。生活習慣病の診療では、その短い診療時間の中で、いかに包括的に診療するかが大きな課題でした。そこで、生活習慣病の患者さんを効率的に診療し、患者さんに満足してもらうには抜本的に医療体制から作り変



クリニック内の受付端末。クリニックには診察室用にデスクトップ端末を3台、ノート端末1台、受付にデスクトップ端末2台、処置室にノートPC端末を設置してスタッフの情報共有をサポートしている。

えなければと考え、当クリニックを開業することにしました。

短い診療時間の中で全ての症状、疾病を包括的に診療するには、医療ITを活用して診療を効率化することが不可欠です。電子カルテを活用した診療情報の一元化はもちろんですが、患者さんに満足してもらうためには、来院してから、検査を受け、結果説明を聞き、薬の処方箋を受け取るまでの時間が短い方が良いに決まっていますし、薬を受け取る薬局での待ち時間も同様です。当クリニックでは、各種検査機器とシームレスな連携が可能な電子カルテシステムをはじめ、インターネット上での予約が可能なる予約管理システムや会計後に処方箋を薬局に送信することが簡単にできる送信システムなどを導入し、効率的かつ迅速な診療を実施しています。

私は、開業前にこのような医療ITの環境を構築するため、さまざまなメーカーのあらゆるシステムを調べて、現在のシステムを構築しました。

——電子カルテシステム選定の理由とその有用性についてお聞かせください。

ほとんどの診療所向けの電子カルテシステムを検討しましたが、設定の自由度が高い「SimCLINIC T3α XLink package」は魅力的でした。細かい画面設定や設定項目を、ユーザーによって自由に変更できる点がとても重要視しています。

当クリニックでは、COVID-19に対するPCR検査を実施していますが、検査結果が確定して被検者に検査結果をEメール等で送信する際、「SimCLINIC T3α XLink package」ではマイクロソフトOfficeとの連携機能が充実しているため、検査結果に関する書式をExcelやWordのシート上で簡単に作成することができます。シートには、電子カルテのカルテ番号や生年月日、検査結果に関するデータ等が自動で取り込まれ、シートをPDFファイル化することも容易です。

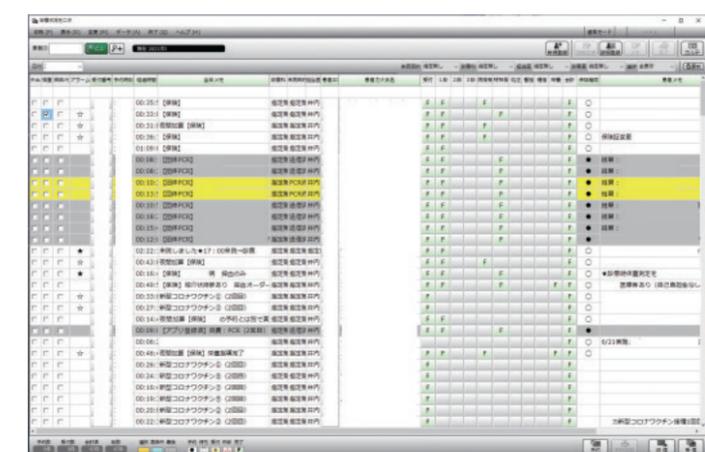
普通にPCを扱っている人からすれば当たり前のように聞こえるでしょうが、

一般的な診療所向け電子カルテシステムでは、意外にOfficeとの連携ができていないのです。診断書や紹介状の作成でも他社製システムではデータの自動転送ができず、いちいちOfficeを立ち上げ、文章やデータをコピーするなど入力作業が必要なため、このような書類作成に手間と時間がかかってしまうのです。その点、「SimCLINIC T3α XLink package」は時間をかけることなく簡単に文書作成ができるので、たいへん助かっています。

——診療の迅速化についての電子カルテの貢献は如何でしょうか。

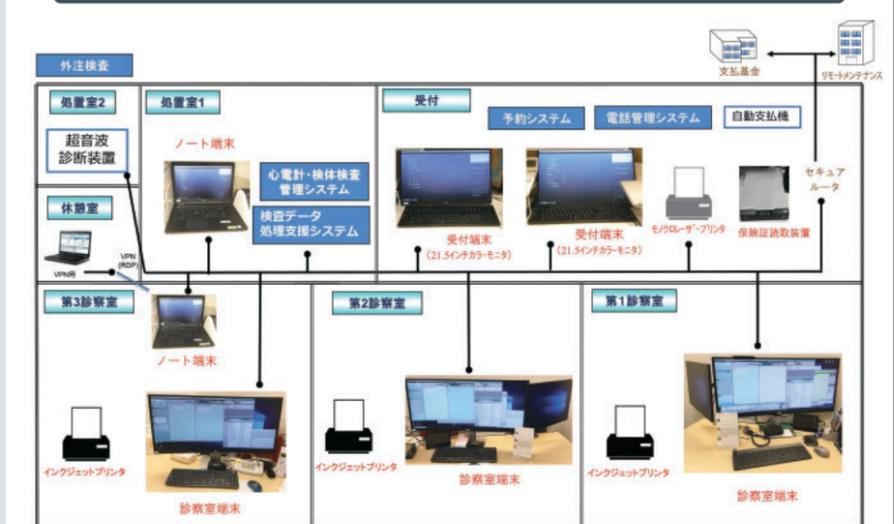
診療の迅速化という点では、診察状況

診療所向け電子カルテシステム「SimCLINIC T3α XLink package」カルテ画面の診療状況モニタ



同クリニックでは診察状況モニタ機能を活用し、表示内容についてはユーザーが自由に設定することができ、院内における患者の状況をリアルタイムに把握することで待ち時間の短縮や診療業務の効率化を図っている。

日本橋れいわ内科クリニック システム構成図





院内には検体検査機器が充実しており、生活習慣病に関するさまざまな検査を実施。検査データは電子カルテに自動で送られ、迅速な検査結果報告を行っている。



同クリニックでは医療ITを積極的に活用し、ネットからの予約可能な予約システムと電子カルテが連動し、受付業務の省力化を実現している。

### 遺伝子解析装置「AutoAmp」 PCR検査を安全かつ迅速に実施

——COVID-19のPCR検査用に遺伝子解析装置「AutoAmp」を導入された経緯についてお聞きします。

当クリニックは都心のど真ん中といえる日本橋にあるので、開業直後に緊急事態宣言が発出され、その影響をモロに受けてしまいました。テレワークが推奨されたことで、当クリニックの患者さんが多い大手町や東京駅近辺から患者さんが訪れることは少なく、影響は極めて深刻でした。

一方で、COVID-19に対するPCR検査の需要は、開業当初から非常に高いものでした。当クリニック周辺にある大手企業では、感染者や濃厚接触者がいても業務を止められないため、迅速なPCR検査の需要は大きかったです。

当クリニックでは、2020年7月からPCR検査を開始しましたが、これは全国でもかなり早い時期だったのではないのでしょうか。その頃は、外注検査で実施していたため、検査結果は検査2日後に患者さんに報告していました。しかし、このような感染症については、検査結果をより迅速に報告することが重要です。

そこで、当クリニックでも外注検査に頼らず、自前で検査を実施するために検査装置の導入を検討することにしました。いくつか迅速検査可能な装置はあったのですが、測定できる検体の数に限りがあり、検査のためにスタッフを装置に張り付けさせる必要があるものばかりでし

モニタという機能がとても役立っています。これは、当日来院した患者さんが、受付を済ませてからクリニックから退出するまでの院内での状況を管理・把握するための画面です。

例えば黄色の表示は検査中の患者さん、緑色は検査結果が出て受信待ちの患者さんであるなど、患者さんの状況を一目で分かるようになっています。画面の色や文字、表現等もユーザーが細かく自由に設定できるので、クリニックの事情や診療の流れに応じた設定が可能です。

加えて、当クリニックには診察室が3つありますが、どの診察室に患者さんを案内しているのか、診察待ちがあと何人なのか等、診察の状況をどの端末からでも全てのスタッフが把握することができるのは助かります。運用を変更したい際もユーザーが自由に設定を変更できる点も優れています。

また、診察状況モニタ機能とメモ機能を組み合わせて運用することで、さらに効率的かつ迅速な診療を実現しています。

メモ機能そのものは、他社製の電子カルテシステムにも実装されていますが、「SimCLINIC T3a XLink package」には様々な画面上にメモ機能が備わっています。患者さんについて継続的に伝達しなければならない事項、例えば採血時のアルコールにアレルギーがあるといった情報や、診療当日にちょっとした伝えたいいけない事項を、院内スタッフ皆が容易に情報共有でき、結果として患者さんの診療の流れを止めることなく、診療や検査案内等をスムーズに実施できています。

——具体的に、どの程度診療を迅速化できたのでしょうか。

診療状況モニタにより、経過時間も分かるので、患者さんが受付してから帰るまでの時間も計れます。最も診療が効率よくできたケースでは、患者さんが受付をしてから、生化学検査を実施して検査結果を患者さんに報告し、診療と会計が終わるまでに25分だったことがあります。また、当クリニックの受付からクリニックを退出するまでの時間は、平均しても35分以内と、かなり驚異的なスピードで診療を行っています。

スタッフ間で、開業前にどのような流れで診療するかを検討し、実際のワークフローに落とし込む作業には苦労しましたが、満足のいくシステム構築ができた実感しています。

島津製作所の電子カルテは業界内では決してメジャーとは言えないかもしれませんが、ユーザーとしてはもっと普及してほしいですね。



院内にある体重計や全自動血圧計もデータに自動転送可能。診療業務の効率化と迅速化を図るためにITを徹底的に活用している。

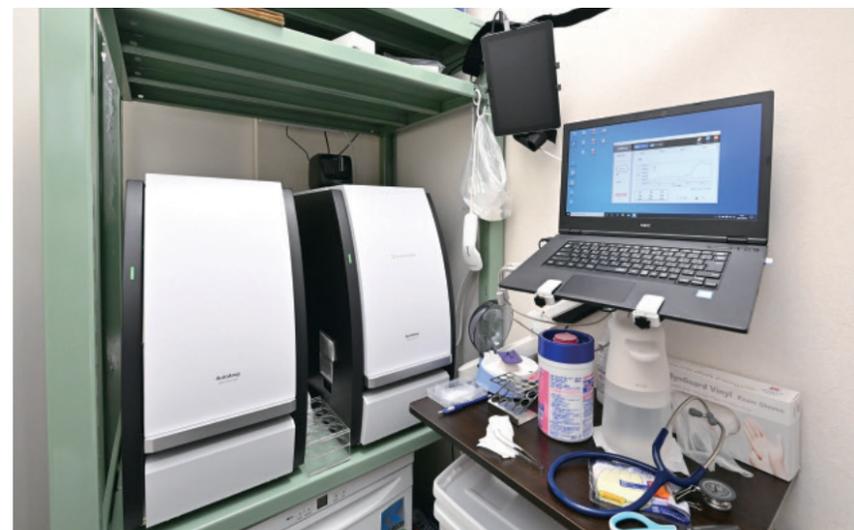
た。また、当クリニックのようにスペースに余裕がない施設では、装置のサイズも重要な要素となります。なかなか納得できる装置が見つからなかったのですが、そこに島津製作所製の遺伝子解析装置「AutoAmp」が2020年11月に発売され、極めて優れた装置であると判断して12月に導入しました。

——「AutoAmp」の有用性についてお聞かせください。

「AutoAmp」は、検体、試薬及び消耗品をセットするだけで検査をすることができます。試薬を混ぜるなどの細かく煩雑な検体処理の手間が不要であり、また、PCで簡単に操作できることから、圧倒的にスタッフの感染リスクを抑えることができます。

また、検体についてもリスクの高い鼻からの採取だけでなく唾液からの採取でも構わないですし、その量も1～2ccで十分なので、検体採取に苦労することもありません。装置のサイズも非常にコンパクトな上に管理の手間も少なく、そのために貴重な医療スタッフを割く必要もありませんので、とても使い勝手の良い優れた装置だと改めて思います。

検査結果は、迅速に報告するための専用アプリを被検者さんに登録していただければ、検査後最短で2時間、長くても4時間、平均すると3時間程度で検査結果



遺伝子解析装置「AutoAmp」。同クリニックでは2台の「AutoAmp」を導入し、多い日で1日60件ものCOVID-19に関するPCR検査を実施。検体の扱いと装置の操作が容易で、人的リソースを費やすことなく、精度の高いPCR検査を迅速に行うことができる。

の報告が可能です。当クリニックを18時までに来院していただければ、当日中に検査結果をご連絡しています。

被検者さんからの評判も上々で、そのスピードを求めて当クリニックを来院される方も多いです。検査依頼は、多いときで1日50件ほどあります。

——PCR検査を院内で実施することへの不安はありませんでしたか。

COVID-19の患者さんを最初に診察したのが開業直後の2020年3月で、所謂第3波と言われる2020年11月から3月にかけての時期は、ほぼ毎日COVID-19の感染者、もしくは濃厚接触が疑われる方など、検査を要望する方が受診しました。

院内でPCR検査を実施することについてはスタッフも当初心配していましたが、幸い、当クリニックのスタッフからは1人の感染者も出してはいません。

換気対策や院内の消毒処理など、感染症対策をしっかりと行えば、COVID-19を過度に恐れる必要はないのです。ただし、「AutoAmp」のような装置を導入して、自施設内でPCR検査を行うのであれば、PCR検査や感染症対策を正しく実施できるスタッフが不可欠なのは自明です。

「AutoAmp」導入を考えている施設には、正しく装置を運用してもらうことを心がけていただき、COVID-19の診療に役立ててほしいですね。

Clinic Infomation

## 日本橋れいわ内科クリニック



住所：東京都中央区日本橋3-2-15  
ザ・レジデンス東京駅前 1階  
標榜科目：内科・糖尿病内科

### “令和のかかりつけ医”を目指して 生活習慣病専門クリニックを開業

2020年3月に開業した日本橋れいわ内科クリニックは、その名の通り中央区日本橋という都心の、まさに中心地に立地。働く世代をターゲットに、糖尿病、高血圧、脂質異常症といった生活習慣病にフォーカスした診療を展開している。同クリニックで実施している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するPCR検査は、18時まで同クリニックで検査を受ければ、検査当日に検査結果を知ることができ、被検者たちからの評価も高い。また、生活習慣病に関連した禁煙外来や頭痛外来、ED・AGAに対する診療も実施している。2020年12月からはCOVID-19に対する独自検査を実施。オンライン診療にも対応している。スタッフは代表医師の井内裕之氏と看護師2名、栄養士2名、事務職員3名の計8名が常勤しており、他に非常勤医数名が同クリニックに勤務している。